令和５(2023)年度　病害虫発生予報　第１号

令和５(2023)年４月 21 日
栃木県農業環境指導センター

気温の上昇、多湿に伴う病害虫の発生に注意しましょう！

予想期間４月下旬～５月下旬　　予報の根拠で、（＋）は増加要因、（－）は減少要因を表す。

１　いちご　ハダニ類

（１）発生予想　　発生量：**やや少ない**

（２）根　　拠
・現在の発生量はやや少ない（平年比 42%：ほ場率、平年比 25%：株率）。（－～±）
・向こう１か月の平均気温は平年並または低く、日照時間は平年並または少ない見込み。(－～±)

（３）対　　策
・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・気門封鎖剤を活用するとともに、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布し、抵抗性の発達を抑制する。
・苗による本ぽへの持込みを防ぐため、育苗時の防除を徹底する。また、親株床での発生を防ぐため作業は本ぽ作業の前、もしくは別に行う。

（４）備　　考
・ナミハダニ薬剤感受性検定結果を当センターホームページ（HP）に掲載中。

２　いちご　アザミウマ類

（１）発生予想　　発生量：**やや少ない**

（２）根　　拠
・現在の発生量は平年並（平年比 87%：ほ場率、平年比 115%：株率）。（±）
・向こう１か月の平均気温は平年並または低く、日照時間は平年並または少ない見込み。(－～±)

（３）対　　策
・花を良く観察して、観察した花の１割以上にアザミウマ類が見られる場合には、スピノエース顆粒水和剤(RAC コード I:5)等を散布する。

（４）備　　考
・防除のポイントNo.19、アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②を当センターHP に掲載中。

３　トマト　コナジラミ類

（１）発生予想　　発生量：**平年並**

（２）根　　拠
・現在の発生量は平年並（平年比 129%：ほ場率、平年比 157%：株率）。（±）
・向こう１か月の平均気温は平年並または低く、日照時間は平年並または少ない見込み。(－～±)

（３）対　　策
・施設内外の除草を徹底する。
・黄色粘着板を設置し、発生状況の把握に努める。発生が見られた場合には、トランスフォームフロアブル(I:4C)等で防除する。
・生育に応じて葉かきを行い、幼虫を除去する。除去した葉は放置せず、ポリ袋等で密閉して完全に枯死・死滅させてから処分するか、土中に埋める。

（４）備　　考
・タバココナジラミ薬剤感受性検定結果を当センターHP に掲載中。

４　きゅうり　べと病

（１）発生予想　　発生量：**多い**

（２）根　　拠
・現在の発生量は多い（平年比 213%：ほ場率、平年比 345%：株率）。（＋）
・向こう１か月の降水量は平年並みまたは多く、日照時間は平年並または少ない見込み。(±～＋)

（３）対　　策
・多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。
・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
・予防を主体に銅剤やダコニール 1000(F:M5)等を散布する。発病が見られるほ場では、治療効果のあるリドミルゴールド MZ(F:M3,F:4)等を散布する。

（４）備　　考
・キュウリべと病薬剤感受性検定結果を当センターHP に掲載中。

５　たまねぎ　べと病

（１）発生予想　　発生量：**多い**

（２）根　　拠
・現在の発生量は多い（平年比 196%：ほ場率、平年比 1155%：株率）。（＋）
・向こう１か月の平均気温は平年並または低く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。（＋）

（３）対　　策
・雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
・予防を主体にダコニール 1000(F:M5)を散布する。発生が見られる場合は、ザンプロ DM フロアブル(F:45,F:40)等を散布する。
・曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。

（４）備　　考
・気温 15℃前後で雨が多いと発生が多くなりやすい。
・植物防疫ニュース No.13（タマネギべと病）を当センターHP に掲載中。

６　その他の病害虫

作 物 名	病害虫名	現　況	発生予想
いちご	うどんこ病	やや多	**やや多**
トマト	灰色かび病	やや少	**平年並**
	うどんこ病	多	**多**

作 物 名	病害虫名	現　況	発生予想
きゅうり	うどんこ病	平年並	**平年並**
	褐斑病	やや多	**やや多**
たまねぎ	黒斑病	少	**やや少**
	アザミウマ類	平年並	**平年並**

○ 水稲の移植時期における病害虫対策

箱施用剤を使用し、いもち病や紋枯病等の病害やウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等の害虫の発生を抑制しましょう。特に常発地、多発地では、積極的に使用しましょう。

○ 麦類赤かび病

麦類の生育は平年に比べ、二条大麦が７～10 日程度、六条大麦及び小麦が３～５日程度早く進んでいるので、出穂や開花状況をよく観察して、適期防除を行いましょう。

植物防疫ニュース No. 1 （麦類の赤かび病を適期に防除しましょう！）を当センターHP に掲載中です。

○ いちご親株床

本ぽと親株床の管理作業を分け、本ぽからの病害虫の持ち込みを避けましょう。

○ なし　黒星病

果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、治療効果がある DMI 剤を散布しましょう。昨年多発したほ場では、芽基部病斑が多くなる可能性があるので、特に注意が必要です。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から２週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険があるので注意しましょう。

ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果を当センターHP に掲載中です。

○ かんしょ　サツマイモ基腐病

本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和５(2023)年４月現在、全国 31 都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。

健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

サツマイモ基腐病に注意！を当センターHP に掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- ○ 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- ○ ＲＡＣコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- ○ 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- ○ ４月～６月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

１か月気象予報（予報期間４月２２日から５月２１日　４月２０日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は、平年並または低い確率ともに４０％です。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項　　目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　　温	**４０％**	**４０％**	２０％
降 水 量	２０％	**４０％**	**４０％**
日照時間	**４０％**	**４０％**	２０％

NOUGYO_KSC_TOCHIGI

*Instagram*はじめました。

農作物病害虫図鑑＠とちぎ

センター所蔵の病害虫画像をインスタグラム上で公開しています。
主要病害虫から珍しい種まで、定期的に更新中！
#栃木県#病害虫図鑑　　検索＆フォローよろしくお願いします！

詳しくは農業環境指導センター（℡ 028-626-3086）までお問合せください。
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」
農業環境指導センターホームページ（http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html）でもご覧になれます。